

## 平成26年度第1回建築学教育FD/ICT活用研究委員会議事概要

I. 日 時：平成26年6月9日（月）16：00～18：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：衣袋委員長、前田委員、澤田委員  
（事務局）井端事務局長、野本

### IV. 議事概要

#### 1. 平成26年度委員会活動の進め方について

- ・ 能動的学修実現に向けた効果的な取り組み方策の研究について
- ◆ 委員から以下のような意見があった。
  - ・ 国土交通省（官庁営繕部）が、BIM ガイドラインを策定（平成26年3月19日）。平成26年度から官庁営繕事業（設計業務及び工事）に適用。BIM を民間へ誘導するものである。  
※ [http://www.mlit.go.jp/report/press/eizen06\\_hh\\_000019.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/eizen06_hh_000019.html)
  - ・ 日本建築学会 建築教育委員会 建築教育将来計画小委員会「BIM 教育調査WG」で、＜建設業界における「BIM 教育実践」の調査アンケート＞を行った。BIM に対する企業の取り組み方が分かった。企業は BIM 教育を急いでいるが、設計者自身の思いや方向性と必ずしも一致していない実態がある。
  - ・ 9月12～14日に開催される日本建築学会大会にて内容を報告予定（9/13午後）。BIM 教育に関する企業からの発表※も予定している。※「建築教育部門—パネルディスカッション、大学・企業における BIM への取り組みと教育の現状」
  - ・ 上記のパネルディスカッションに参加する建築教育関係者にダイレクトメールを送付し、本対話集会について案内してもよい。
  - ・ 対話集会には教員のみならず職員にも参加してほしい。システムの導入、展開には技術的、費用的な問題が多々ある。全体で取り組まなければならない。
  - ・ BIM によって建築を統合環境としてデータベース化できる。ユーザーの満足度につながる説明責任を果たすことが可能になる。ツールのみならずいかに創造的に活用できるかである。
  - ・ BIM によって、これまで誤魔化してきたことがあぶり出される。問題点の前倒し、多角化が可能となる。フロントローディングによって効率化が図れるというが、実際はむしろ仕事が増える。
  - ・ 現状では、BIM によって設計者の状況が変わったとはいえない。
  - ・ 国立競技場のいきさつでは BIM がどのように生かされているのか見えない。  
⇒統合環境という特性を生かしているとは思えない。複雑な形態の数値的解析を行っているに過ぎないのではないか。
  - ・ 建築設計教育では、エスキスに有名建築家を招いたりするが、その場でのやり取りで終わってしまっているのではないか。学生の視線に立った、振り返りのある、蓄積される教育が実践されていない。問題解決型の教育が必要。PDCA を背景にした教育が必要。
  - ・ アクティビティのある教育について議論し理解を深めてもらいたい。

## 2. 対話集会に向けた今後の研究の進め方について

### ◆ 対話集会開催について

- ・ 日時：2014年12月13日（土）14:00~16:00
- ・ 場所：芝浦工業大学豊洲校舎
  - ※6/12に学内で調整し教室等を仮押さえした。
  - ① 12月12日（金）14:40~21:00 デモ環境準備のため
  - ② 12月13日（土）9:00~21:00
    - ・ PC講義室（3室、教室棟6階）
    - ・ 100人（402教室、交流棟）
    - ※教室棟と交流棟は渡り廊下で連絡。
- ・ 7月には関係者にアナウンスをかけたい。
- ・ 芝浦工業大学で行っている遠隔授業システム（Web Learning Studio）を用いた授業紹介を行う。
- ・ 次回は、タイトル・内容・具体的な進行などを討議する。

## V. 次回の開催日程

- ・ 次回の開催は7月後半としてメールで調整することにした。